

受講番号 19038 学校名 須崎高等学校 氏名 田中 和恵

## 研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 28名  
科目名 リーディング 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Vivid Reading(第一学習社)

## クラスの様子・特徴

1クラス(41名)のうち大学進学を目指す28名(男子8名・女子20名)を対象としたクラスである。大半の生徒が「できれば楽しく英文が読めるようになりたい」と考え、継続した学習の積み重ねが苦手なようである。

## 問題の確定

継続した学習習慣が身についていない。語彙力と文法力がないためまとまった英文が読めない。

## 予備調査

## A 授業の観察

教科書の「単語」テストや『即戦ゼミ8』の小テストを定期的実施する中で、最初は「やらされている」意識が強く不平の声が聞こえたこともあったが、徐々に休み時間も勉強する生徒が増え、受験生としての意識が芽生えてきた。

## B 生徒による授業評価

5月のアンケートではほぼ全員が「英語は難しい」と答えている。大学受験という大きな目標があるので勉強しなければならないことは認識できているが、長文読解のためには自分から読まないといけないし、単語も覚えなければいけないことがわかったようである。

## C 学力データ

4月に実施された代々木ゼミナールのセンター模試では200点満点中平均が61点で、3割しかとれていない。最高は141点、最低は31点であった。第6問の長文読解では43点中14点という成績であった。

## リサーチ・クエスション

授業の中で「やればできる」という自信を持って英文を読み、模試でも目標の点数が取れるにはどのような指導が効果的か。

## 仮説・実践・検証

## 仮説1

単語テストや文法テストを定期的実施し、合格点に達しなかった場合再テストを行うなど、ある程度負荷をかけ勉強せざるを得ない状況を作ること、語彙強化をはかれば長文読解にも取り組みやすくなるのではないだろうか。

## 実践1

語彙強化のために、教科書の単元ごとの単語テストをほぼ毎週木曜日に設定し、文法強化のためには『即戦ゼミ8』の節ごとの試験を毎週金曜日に実施した。「即ゼミ」のテストは7割を合格点とし、再テストを個別に実施した。また、語彙サイズテストを行い、語彙数が増えたかどうかを把握したかったが、これ以上テストのために時間を割くことはできず断念した。

## 検証1

「即ゼミ」テストに関しては、時々でも勉強して臨む生徒が93%おり、78%の生徒が文法の力がついたと感じていた。再テストについて6割の生徒が「効果的だった」と振り返っており、ある程度の負荷をかける必要性があったことを示唆している。「単語テスト」は教科書の本文に線を引いて意味を問うという簡易なものであったが、こちらも継続して実施することで8割近くの生徒が語彙力増加につながったという答えが返ってきた。

## 仮説2

授業中に配布する教科書の英文読解用のハンドアウトを工夫すれば、英文に対する苦手意識が少しでも少なくなり、読む量もこなしていけるのではないかと。

## 実践2

授業で用いるプリント教材の充実をはかれば、英文に対する苦手意識がなくなり、読む量も増やせるのではないかと考え実践してみた。3年生のリーディングの時間では第一学習社のVivid Readingを使用しているが、教科書の問題が充実していることもあり、プラスアルファのタスクを構えることで同じ英文を3ないし4回読むことができた。

## 検証2

本文を読み取る前にリスニングの( )抜きをしたり、日本語を提示して英語を考えさせたり、マンネリ化しないようレッスンごとに工夫してみたが、「わかりやすく読んでみようという気になった」生徒は3割強で7割近い生徒にとっては「普通」だった。何度も読むための工夫をしたが、結果としては、模試の長文なども読めるようになってきた生徒が85%もいたので読む量としては目標の基準に達していたと思いたい。

## 仮説3

英文を読むスピードがあがれば、読解問題の正解率もあがるのではないだろうか。

## 実践3

夏の研修後、2学期より「速読テスト」を週一回のペースで導入した。時間を計って英文を読み、限られた時間で問題を解くことで読むスピードの強化と内容を読み取るスピード強化をはかった。解説込みで10分で終わるよう時間配分し、154語の英文からスタートし、読解後すぐ答え合わせをした。

## 検証3

2学期から毎週1回実施したが、いやいや取り組んだのはクラスの中で1人のみだった。このテストを効果的だったと感じたのは7割弱いて、思ったよりも読むスピードアップにつながることを実感したため長文読解の力につながることに役立ったようである。

## 研究の成果

各小テストでは、合格点を設定し、合格者数を常に生徒の前で公表することでまず小集団の中での自分の英語力を確認させることができたと思う。不合格者の再テストも、個別に対応することで声かけの機会も増え、生徒のやる気を促進させることができた。テストのために9割以上の生徒がほぼ毎回勉強しており、文法力や語彙力増強を感じる生徒が8割以上いたことも成果の一つである。速読テストは、消極的に取り組んだ生徒は1名のみで、大半が意欲的に取り組み英文を読むスピードがあがり、それに伴い読解力がついてきたと答えている。

## 今後の授業改善の課題

4月から11月の第4回目の模試までに平均点が15点しかアップしていないし、第6問の長文読解に関してはほとんど点数が伸びていなかった。「なんとなく長文が読めるようになった」生徒は増えたが、正しい解答を選択するところまで行き着いていないという問題点がある。また、自分なりに工夫したつもののプリントに関して7割の生徒が「普通だった」と回答している。生徒を惹きつけるタスクを構える必要性があったことを反省し、今後の課題としていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0889-42-1744

電子メール